



エコシン

一般社団法人長野県環境保全協会

No.207
2020/3/25
Less CO₂!

「信州 ESD コンソーシアム成果発表会 & 交流会」に参加しました

2月1日(土)、信州大学国際イノベーションセンターで開催された「信州 ESD コンソーシアム成果発表会 & 交流会」に出席しました。

「信州 ESD コンソーシアム」には信州大学をはじめ、ユネスコスクール、教育委員会等多様な主体が参画しており、当協会も発足当初から参画しています。

当日は長野県内で ESD に取り組んでいる小学校6校、中学校3校、高校3校と長野県 NPO センターユースリーの成果発表が行われ、また飯田市から3校の

生徒がテレビ会議で参加し活動報告に対する感想が寄せられました。

小学生は身近な学校生活から、中学生は生活している地域から、高校生はSDGsの観点で広く海外にも目を向け、課題発見とその取り組んできた成果の発表が行われました。

それぞれの年代の児童、生徒、学生が高い問題意識を持ち、課題を発見しその解決に向け取り組ん

でいることを知り大変頼もしく感じました。

(総務部長 北村義明)



生物多様性の保全「きずなフォーラム」に参加しました

「信州生物多様性ネットきずな」と長野県が主催した第5回きずなフォーラムが、生物多様性保全に取り組む17団体、約100人が参加して、2月7日(土)に塩尻市総合文化センターで開催されました。

世界の中でも生物多様性が高い日本、その中でも長野県は特に生物多様性が高い地域です。例えば、チョウ類の生息数は149種で、47都道府県中で最多です(長野県配布のパンフレットによる)。一方で、多くの種で絶滅が心配されるなど、生物多様性の劣化が進行しています。2012年に「生物多様性ながの県戦略」が策定さ

れましたが、今年度はその「行動計画」の評価と見直しをする時期になっています。

今回のフォーラムでは、『「生物多様性ながの戦略の見直しにむけて」～多様性の保全と人のネットワーク～』をテーマに、長野県環境保全研究所の須賀丈主任研究員による基調講演、軽井沢サクラソウ会議と安曇野オオルリシジミ保護対策会議からの事例報告に続いて、ワークショップでは生物多様性保全に向けて、課題や目標などについて熱心な議論が展開されました。

(事務局 中澤博道)



Eco
Plaza



環境配慮型事業スタート

フレックスジャパン(株) 代表取締役社長 矢島隆生



当社では、事業活動のあらゆる機会を温室効果ガス排出削減・脱プラ等、SDGs活動の一環と捉え、積極的な取組を開始した。当社は早い段階でエコ素材の開発やオーガニックコットン、ケナフを使用したシャツ生地を取扱った経緯もあり、合繊メーカーのリサイクル活動にも参画してきた。

今回はシャツの配送の際に必要なとなる保形具3種をプラスチック製から紙製に移行し、アースコンシャスパッケージと表記した。次のステップとして、古くなったり、着なくなったシャツをリサイクルして、新たに紡績されたシャツの企画・生産・販売を自社の直営店で展開予定である。

＜寄稿＞ PET ボトルの「ボトル to ボトル」を推進 北陸コカ・コーラボトリング(株)

2019年7月、日本のコカ・コーラシステムは、「容器の2030年ビジョン」を更新し、新たな環境目標を策定しました。「容器の2030年ビジョン」(右図)には大きく「設計」「回収」「パートナー」という3本柱がありますが、今回は「設計」について述べます。

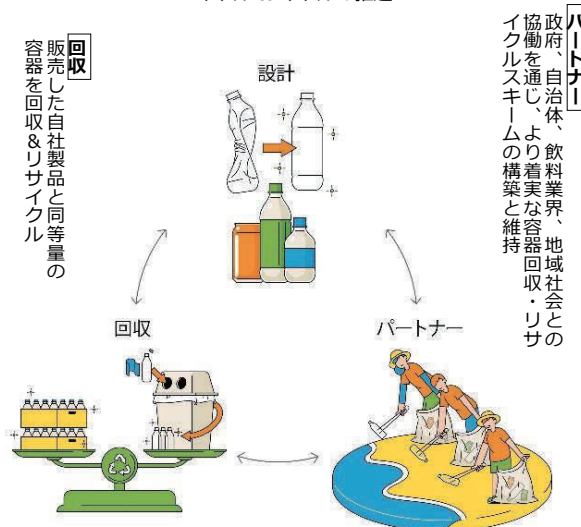
「設計」においては、容器の原料や形状をサステイナブルなものにしていくことに注力します。

日本国内で重視しているのは、飲料などで使用したPETボトルを回収・リサイクル処理した上で、PETボトルとして再生するという「ボトル to ボトル」の推進です。

この取り組みにおいては、従来の目標を大きく前倒して、新たに次の数値を掲げています。

①2022年までにリサイクルPET樹脂の使用率50%以上を達成し、2030年には「ボトル to ボトル」の割合を90%まで高めます。②2025年までには、日本国内で販売するすべての製品の容器をリサイクル可能な素材へ変更し、また同年までにすべての製品のPETボトルにサステイナブル素材(リサイクルPET樹脂または植物由来PET樹脂)を使用します。③2030年までには、サステイナブル素材の割合を100%とすることで、新たな化石燃料を使用しない容器の、完全導入を目指す。

設計 ・容器の原料や形状をサステイナブルなものにしていくこと
・ボトル to ボトルの推進



容器の2030年ビジョン

指します。

「ボトル to ボトル」を推進するには、少しでもきれいな状態で回収することが大切です。

使用後のPETボトルのキャップ・ラベルを外した分別を促進するなど啓発活動にも努め、様々なパートナーと連携し廃棄物ゼロ社会を目指して参ります。

＜寄稿＞ 千曲市内小学校で「地球温暖化の環境学習」を実施しました

千曲市地球温暖化対策協議会では、毎年市内小学生の環境意識の向上を図ることを目的に環境冊子「みんなでチャレンジ! エコノート」を配布しています。

エコノートの配布に併せ、希望する小学校に出向く、エコノートを活用した「地球温暖化の環境学習」を企画し、今年度は埴生小学校4学年、戸倉小学校4学年、上山田小学校4学年の3校で昨年秋に実施をしました。

児童の皆さんは、クイズを交えながらの環境学習において、地球温暖化の原因・影響・対策などの話を興味深く聞き、自分たちができる温暖化対策を考え発表しました。



エコノートの取組みの記録欄には、自分で考えた対策を書き込み、1日の終わりに出来たかどうかを記入します。

学習の終わりには、千曲市地球温暖化対策協議会の会長から児童の皆さんに、地球温暖化対策リーダーの委嘱状が手渡され、全員が学校や家で先頭に立って温暖化対策に取り組むことを約束してくれました。

当協議会では、次世代を担う子ども達が、地球温暖化について学び・行動することが、温暖化防止に有効であると考えており、今後もこのような活動を継続していきます。



(千曲市地球温暖化対策協議会 相沢賢一)

地球温暖化防止活動推進センター通信

推進員密着レポート エシカル学習会「大豆でフルコース」

2月2日(日)長野市のふれあい福祉センターで、エシカル学習会「大豆でフルコース」に参加、講師を務めた県推進員・渡辺ヒデ子さん(NPO法人みどりの市民)に密着しました。

まず「エシカル」とはなにか、クイズを交えたレクチャーを受けた後、調理室に移動。エプロンに三角巾をつけた約20名の参加者が4班に分かれ、同法人メンバーが育てた大豆を使っていよいよ調理実習。

担当したメニューは「豆腐の酢豚風」。凍らせた豆腐を解凍して一口大に切り、水気を手で絞ったら下味をつけ、多めの油できつね色になるまで焼いて、野菜と一緒に炒めました。

メンバーの方々が予め用意してくださった品々もあわせ、大豆づくしのフルコースを、隣



エシカル消費とは…

エシカル=ethical(倫理的な)

- ① 環境
- ② 人や社会
フェアトレード(公正・公平)
- ③ 地域 地産地消・伝統工芸品
- ④ アニマルウェルフェア=動物福祉
- ⑤ 紛争のない鉱物資源 レアメタル等に配慮した消費

の和室で味わいました。酢豚風はスポンジ状の豆腐に味がしみ込んで美味しいと評判でした。

試食しながら、自己紹介兼情報交換。特に多かった感想は、「大豆でこんなにたくさんの料理ができるなんて！早速家で試したい」「大豆の自給率が7%*とは驚いた」。

*サラダ油等の原料となる油糧用を除く食品用に限ると自給率は24%

渡辺さんは、調理実習を通して「エシカル消費」に触れ、暮らしのなかでのちょっとした選択が地域を元気にし、持続可能な社会につながることを、楽しく学んでもらえたら、と話されていました。堅苦しく大仰に考えず、できることから少しずつライフスタイルを見直すいい機会になりました。(県センター 田中陽子)

本日のメニュー

- プルプル豆乳抹茶プリン
- 玉ネギドレッシングの豆サラダ
- まるでチーズ(豆腐のみそ漬)
- 黒豆おこわ
- フェアトレード認証コーヒー



- 豆腐を肉代わりに 酢豚風
ゴミ減量のため、ニンジン皮つき、ピーマンも種つきのまま調理。玉ネギは皮をぬらさずにむいて持ち帰り、スープをとるそう！
- コールスロー豆ゴマサラダ
- かきたま汁
動物福祉に配慮して、ケージフリー*の平飼いの卵を使用。

*バタリーケージに詰め込まれるのではなくニワトリが自由に動き回れる状態

〈市センター〉推進員研修を開催しました

1月28日(火)、令和元年度第2回推進員研修を協会会議室で実施しました。研修内容としては、昨年11月に福井市内で開催された「中部ブロック合同推進員研修会」の報告、新しい実験機器の紹介、NHKドキュメンタリーBS1スペシャル「気候クライシス IPCC特別報告書からの警告」の視聴などを行いました。

合同研修の今回のテーマは「推進員と地域センターがコラボしてやれる事業を企画しませ



んか」で、基調講演、ワークショップの様子などを、参加した職員から報告しました。

新しい風力発電実験機器(でんまね写真)は、うちわでプロペラを回して発電させた電力量を画面に表示できるもので、具体的な数字として結果をお伝えできることから、わかりやすく、競い合いながら楽しむこともできる

と期待しています。(市センター事務局長 宮沢博)

第 30 回理事会開催 ～中間期事業・会計報告～

第 30 回理事会が 2 月 26 日（水）に長野市の長野ホテル犀北館で、理事・監事 21 名が出席して開催されました。

冒頭、山浦愛幸会長から「今年から、パリ協定の温暖化対策が各国で本格的にスタートする。地球の温暖化は確実に進んでいる。昨年 12 月には、県が気候非常事態宣言を出し、2050 年にゼロカーボンを目指す積極的な動きを表明した。県の SDGs 推進企業登録制度には 232 社が登録している。信州環境カレッジは昨年 4 月以降で講座数 271 件、受講者数は約 9 千人の実績をあげている。また、会員企業による新しい環境関連技術もプラスチック分野などで次々と発表されている。」との挨拶がありました。

■議事 事務局から、令和元年度中間期の事業報告及び会計報告がありました承されました。

■決議事項 事務局長中澤博道氏の辞任に伴い、新たに早川隆一氏の就任が決議されました。

■その他 ①会議日程 第 31 回理事会・企画委員会 7 月 29 日、第 32 回理事会 9 月 8 日、第 9 回定時総会 10 月 15 日 ②協会ホームページのスマホ対応など広報活動の見直し ③信州エコ大賞 受付期間 3 月 27 日まで、受賞者の決定は 7 月 29 日の理事会を予定しています。

正副支部長会議 開催される

理事会に先立って正副支部長会議が 7 支部から 12 名が参加して開催されました。

事務局より令和元年度の各支部活動状況（中間期実績）の報告があり、引き続き、環境バスツアーや講演会などの支部活動などについて意見交換が行なわれました。

環境講演会「SDGs 使いこなそう」が開催されました

2 月 15 日（土）上田市中央公民館で、うえだ環境市民会議が主催する環境講演会が開催され、「長野県 SDGs 推進企業登録制度」の仕組みや登録企業の取組の紹介、上田高校の生徒の研究発表が行われました。



登録企業のコムパックシステム(株)からは、SDGs を勝ち残るための新たな戦略と位置づけ、「社会の課題に貢献できる新規商品の開発が生き残りの手段となる。商品開発を SDGs に関連さ

せ、既存事業の拡大に繋げていきたい。」と発表がありました。

また、スーパーグローバルハイスクールに指定されている上田高校からは、海洋でのプラスチック汚染やファストファッション（安く大量生産される衣料）の問題点について指摘し、その対策として地元和紙を使ったストローの代替品や「高校生のクローゼット改革」といった、高校生の視点からの提案がありました。

（県センター事務局長 中山哲徳）

事務局だより

職員の人事異動をお知らせします。

▽ 2 月 29 日付退職

松尾 茂 企画部長兼エコスペース館長

会員数

(2020 年 2 月 29 日)

* 特別会員 92 名 * 一般会員 427 名
* 賛助会員 201 名 * 総会員数 720 名

編集後記

新型コロナウイルスの感染が地球規模に拡大し、会員の皆様にも大きな影響が出ています。

当協会でも支部事務局担当者会議が延期となりました。また、マスクだけでなく、日用品の品不足も社会問題化しました。

リスク管理を徹底して、一日でも早く通常の生活に戻りたいものです。

発行元

〒380-0835 長野市新田町 1513-2

一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL.(026)237-6620 FAX (026)238-9780
E-mail:nace@janis.or.jp http://nace.main.jp/

長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL.(026)237-6625 FAX (026)238-9780
E-mail:nccca@dia.janis.or.jp http://www.dia.janis.or.jp/~nccca/

長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL.(026)237-6681 FAX (026)237-6690
E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp
http://www.eco-mame.net/